

今年の受賞者を
お知らせします

舟橋聖一 顕彰文学賞

舟橋聖一顕彰文学賞は、彦根市の名誉市民である作家・故舟橋聖一氏の功績をたたえ、広く青少年の文学奨励をはじめとした教育・文化の振興を図るために設けています。

18～30歳の青年を対象とした第20回「青年文学賞」には全国から68編の応募が、また、近畿各府県および滋賀県に隣接する各県の小・中・高校生を対象とした第23回「文学奨励賞」には、154編の応募がそれぞれありました。

選考の結果、今回の受賞作品が次のように決定され、授賞式が11月22日(土)の午後2時から彦根プリンスホテルで行われます。

授賞式は、一般の人も参加できます。ぜひお越しください。

問い合わせ先 市立図書館 ☎22-0649番、FAX26-0300番

文学奨励賞

小学生の部

第一席

『しんぱいしたよ。』

おはあちゃん(作文)

三井佳奈さん(若葉小学校1年)

第二席

『彦根のほこり伊直彌』

おはあちゃん(作文)

棚橋瑞季さん(城西小学校5年)

第三席

『おい、ギャーッ』(作文)

麻野修平さん(稲枝北小学校5年)

中学生の部

第一席

『生命のくさり』(作文)

板谷崇央さん(虎姫中学校3年)

第二席

『八十歳の歳の差が教えてくれた人生・ありがとう、おはあちゃん』(作文)

廣部あすかさん(河瀬中学校2年)

第三席

『田んぼで』

思い出つくり(作文)

宮本滉平さん(南中学校2年)

高校生の部

第一席

『外の世界』

『魂の燃焼』(随想)

上田詠子さん(京都光華高等学校2年)

第二席

『母の一生』(創作)

石田 南さん(泉陽高等学校1年)

第三席

『シアワセ』(創作)

脇 瀬玲奈さん(彦根東高等学校3年)

最優秀賞

『僕らの諸事情と、生理的な問題』

(小説)

河島

光さん

(愛知県名古屋市長在)



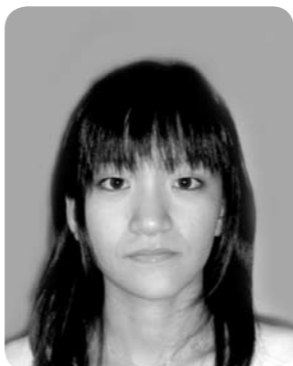
佳作

『冬がはじまる』

(小説)

小出まゆみさん

(大津市在住)



受賞コメント

今回、生まれ育った滋賀県からこんなに素晴らしい賞をいただくことができ、大変光栄に、うれしく思っています。

『僕らの諸事情と、生理的な問題』に出てくる主人公の悩みや葛藤は、そのまま僕自身の悩みでもありました。それはこの物語が実話だという意味ではなく、たとえ虚構として創作しなくても、この物語に出てくる高校生たちと同じような内面が、きっとそこかしこにあふれているのではないかと感じています。

あのころの気持ち、もしいつか、忘れ去られてしまうものなのだとしたら、僕はまだ身体や心にあの感覚が残っている間に、丁寧に切り取り、残しておきたいと思いました。今回の賞は、滋賀で産声を上げた僕の、運命という素敵な偶然の賜物です。

受賞コメント

この度は、青年文学賞の佳作に選んでいただき、誠にありがとうございます。ご感想をいただきたいです。

佳作入選の連絡をいただき、驚きとともに喜びをかみ締めています。十代のころから書き始めた小説が、やっとこのような評価をいただけるものになったのだとうれしく思いました。

自分が書きたいと思いつくものと、実際に出来あがったものとの差異を感じ、戸惑い

ながら、これでいいのかと迷いつつ、今まで書き続けてきました。自問自答、暗中模索の中で何度も心が折れそうになりました。

でも、今回の入選で、自分の進んできた道が間違いではなかったという、一つの答えをもらえたように思います。これからは、この荣誉ある賞を糧に、書くという事に真摯に向き合い、より良い作品を作っていきたいと思っています。

第2回の受賞者をお知らせします

舟橋聖一文学賞

作品名 『柳生大戦争』

著者 荒山 徹

舟橋聖一文学賞は、国宝・彦根城築城400年祭の開催を機に、彦根市の発展を図るために昨年度に創設した賞です。文学の振興を通じて、市民が豊かな心を育み、香り高い文化を築くため、名誉市民である舟橋聖一の文学の世界に通じる優れた文芸作品に対し舟橋聖一文学賞を贈ります。

「舟橋聖一文学賞」は、これまでの「文学奨励賞」、「青年文学賞」のような公募式でなく、基準日を設け、その基準日より前の1年間に新しく単行本として刊行された優れた小説を対象としています。「舟橋聖一文学賞」が「文学奨励賞」、「青年文学賞」に応募する人の刺激となり、創作活動の目標、励みとなるように、また、広く地域文化の振興が図れるよう期待します。



小学生・第3席
麻野修平さん



小学生・第2席
棚橋瑞季さん



小学生・第1席
三井佳奈さん



中学生・第3席
宮本滉平さん



中学生・第2席
廣部あすかさん



中学生・第1席
板谷崇央さん



高校生・第3席
脇 瀬玲奈さん



高校生・第2席
石田 南さん



高校生・第1席
上田詠子さん



荒山 徹 プロフィール

平成11年に韓国史上の英雄である李舜臣を主人公とした長編小説『高麗秘帖』(祥伝社)でデビュー。日本と韓国の交流史を題材にした歴史伝奇小説を書き続け、著書はほかに、『十兵衛両断』(新潮社)、『サラン・故郷忘じたく候』(文藝春秋)、『柳生薔薇剣』(朝日新聞社)、『処刑御使』(幻冬社)などがある。